



## 全ての臨床現場で必要不可欠な検査

超音波検査は超音波を対象物に当て、反射した超音波を画像化したものです。各臓器の形態・機能、血流、筋骨格系の評価など多領域にわたる臨床現場の診療に必要な検査です。被曝の心配がなく、安心して検査を受けていただくことができます。超音波機器は大型のものからポケットサイズまであり、検査室以外の各病棟、救急現場、在宅医療など広く利用されています。超音波検査機器の発達および医療の高度化により、超音波検査は診断のみならず治療にも不可欠となり、構造的心疾患に対するカテーテル治療誘導などにも利用されています。今後益々期待される検査です。

当センターにおける過去5年間の超音波検査総数（2020年度は3月15日時点の件数）を示します。



当センターでは院内の超音波検査を集約し、効率的かつ質の高い検査を行っています。2021年4月から新しい超音波室に移り、安全・環境面を考慮した9ブースの検査室で最先端の技術が搭載された最新の超音波検査装置を使用しています。

検査は超音波センター専属および臨床検査部の検査技師、消化器内科、循環器内科、糖尿病内分泌・血液内科、神経内科、耳鼻咽喉科等の医師が検査を行っています。

侵襲的検査等は外来看護師との協力体制で、安全を最優先に努めています。



## 超音波の学術的活動・研究内容

勉強会、ハンズオン、講演会、心血管エコーの多施設合同カンファレンス (Echo-S) など積極的に学術的活動を行い、研究にも力を入れています。

### 研究内容

- ・ Shear wave elastography (肝臓の硬さを定量化) を用いた肝硬度の研究
- ・ 3D法による心形態・心機能解析 (2D法との比較)
- ・ 時相分析による抗腫瘍薬による早期心機能低下検出の検討
- ・ 構造的心疾患における経カテーテル的治療前後の心形態・心機能の推移等